■■金沢に豊かな学校図書館を願うボランティアネットワーク定例会参加報告■■

2 月 25 日に金沢市立玉川こども図書館で開催された「金沢に豊かな学校図書館を願うボランティアネットワーク」（以下ボネット）の定例会に参加してきました。ボネットは、金沢市内の小中学校で図書ボランティアをしている人たちの集まりです。2001 年に発足され、2013 年度は、3 回の読み聞かせスキルアップ連続講座の後、第 4 回は教科学習を支援する学校図書館の事例報告会が企画されました。この日は市教育委員会指導課の方も参加され、ボネットとも密接に関わって、学校図書館の充実を図られていると感じました。

金沢市は 2011 年 7 月に 21 人の学校司書を採用しました。市内の全小中学校を巡回する形で始まり、2012 年には 31 人に、2013 年には 40 人に増員されています。 市教育委員会の学校図書館総括(*1)や、学校図書館アドバイザー(*2) が、各学校を訪問する時には、必ず学校図書館を活用した授業が行われるそうです。授業の後、授業を担当した教師・学校司書・管理職を交えて検証の機会が持たれているとのことです。図書館活用に関わる人が増え、考える機会が増えることは、図書館の充実につながる有効な方法だと思いました。継続が様々な蓄積を生むことでしょう。

事例報告 「教科学習における学びを支援する学校図書館」

学校図書館を活用した新しい授業づくり研究会主宰　　岡　朝子氏

岡氏は、中学校の国語科教諭、校長、玉川こども図書館館長というキャリアがあり、2013 年度金沢市学校図書館アドバイザーになられました。そして、司書教諭を含む教諭、学校司書、公共図書館司書が自主的に集まり、教諭と学校司書による授業の連携を研究するための研究会を立ち上げられました。

この日は、研究会で考案された中学校での授業の実践を紹介されました。たとえば、中学 1 年生の数学「正負の数」。生徒は石垣算などのパズルを解きながら、正負の数を解きます。学校司書は、和算の本や数学関連の本を紹介します。
また、中学 2 年生の社会「世界の諸地域　アフリカ州」では、学校司書は絵本の読み聞かせをし、アフリカが抱える課題を分かりやすく伝えます。合わせて関連図書のブックトークをします。その後、生徒は自分たちにできる支援を考え、グループごとに発表します。

どの事例も、生徒が自主的に授業に参加し、楽しく学ぶ様子が感じられました。教諭と学校司書は授業の単元のどこで、どのように連携するかを打合せ、意思疎通を図りながら授業を進めます。教諭による指導案、学校司書による支援案が作成されます。岡氏はこれまでの経験をもとに多角的視野で、生徒に学力をつけさせる道筋について言及されました。

この先駆的な研究会では、指導案と支援案をもとに実践した授業を、実践集としてまとめられました。こうした実践の蓄積が、学校司書の働きを活かし、学校図書館の可能性を表現できると頼もしく思いました。　　（世話人　佐伯昌子）

(*1) 学校図書館総括
学校司書の総括者として指導・助言、研修にあたる。授業での学校図書館の活用や読書活動の推進のために学校を訪問し、指導・助言する。

（*2）学校図書館アドバイザー
学校図書館が配置されたのを機に、学校図書館活用の意識を高め推進していくために、教職員（管理職も含む）や学校司書に専門的な立場で指導助言を行う。金沢市教育委員会が委嘱。